

	世田谷区立砧中学校 校長室だより 令和4年 4月28日 第 10 号 校長 大坂 崇		教育目標 「豊かな人間性の育成」 ◎ 集団生活における責任感と自主性を養う ◎ 健康な心身の育成と勤労の喜びを培う ◎ 基礎学力の充実を図り深く考える姿勢を育てる		
	社会性の学び		知的な学び	心と体の学び	
	自他の尊重 地域貢献		主体的な学び 学習の定着	心身の健康	

大切にしたい意識(後)

未学習・誤学習

1 ソーシャル・スキル

人間関係づくりのためのスキル

= 自分の考えや思いを伝えるスキル + 他人の考えや思いを受け取るスキル

× 「あいさつをしましょう」・・・形だけの訓練になってしまう

○ 「あいさつは人の気持ちを和やかにします」・・・思いを感じさせる

* スキルという「型」にはめるのが目的ではない

潤滑にする手段として「スキル」を使えるようにする

2 行動の捉え方

ソーシャルスキルでは、その人の行動を「成育歴」「性格」「環境」の問題と捉えない

例： 無口な生徒 や 粗暴な生徒

× 「成育歴や家庭環境、性格で、無口や粗暴になっている」

○ 「ソーシャルスキルの未学習か、誤学習のため、無口や粗暴になっている」

3 「未学習」と「誤学習」

「未学習」・・・まだ学習していない状況

「誤学習」・・・正しく学習できていない状況

いずれも、場面に応じた適切なソーシャルスキルを「知らない」状況

⇒ 頭ごなしの指導に反発（知らないのに叱られる ⇒ 理由が理解できない ⇒ 反発）

⇒ **問題児と捉えると支援が停止、「未学習・誤学習」と捉えると具体的支援策につながる**

4 教員や保護者等の大人がどう対応するか

① 話を聞き、どのスキルが「未学習・誤学習」か確認する（支援の必要性の認識）

② その場面での「スキルの例」を提示する（支援策の提示）

③ 似たような場面で、繰り返し、声をかけ支援する。（支援の継続）

* 学習の苦手な生徒も同じだと思います。

授業では学習が終わっていたとしても、本人としては「未学習・誤学習」の状況。
だから、うまくいかない。

生徒によって学習（ソーシャルスキルも）を身につけるスピードは違います。

だから、生徒に合わせて、スキルを指導する必要があります。

このような生徒には「何をしてるんだ!」「何でこんなことをしたんだ!」ではなく、

「どうしたの?」「どうするのがいいと思う?」を確認しながら指導するのが重要です。